

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公開番号】特開2000-273103(P2000-273103A)

【公開日】平成12年10月3日(2000.10.3)

【出願番号】特願平11-75564

【国際特許分類】

C 08 C 19/28 (2006.01)

C 08 F 8/46 (2006.01)

【F I】

C 08 C 19/28

C 08 F 8/46

【手続補正書】

【提出日】平成17年11月11日(2005.11.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

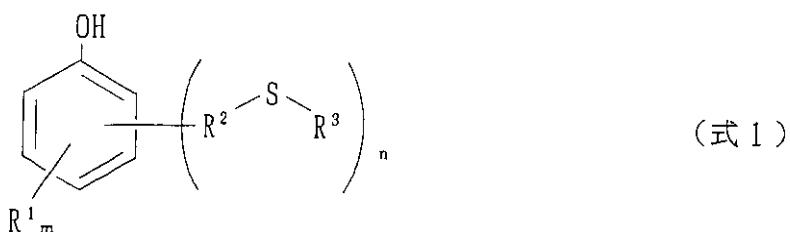
【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明において使用する、分子内にアルキルチオエーテル構造を有しているフェノール系酸化防止剤には、典型的に、以下の式1で示される化合物が含まれ、

【化5】



(式中、R¹、R²およびR³は、それぞれ独立してC₁～C₂₀の炭化水素基であり、mおよびnは、それぞれ1～4の整数で、m+n=5である。)

より好ましくは、分子内に2個のスルフィド結合を有する前記フェノール系酸化防止剤が用いられ、更に最も好ましくは、2,4-ビス[(オクチルチオ)メチル]-O-クレゾールが用いられる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

変性方法

以下の表1および2に示す各ジエン系ゴムをキシレンに溶解し、無水マレイン酸(MAH)およびイルガノックス1520(IRGANOX 1520)の所定量を加え、140にて約20時間攪拌した。反応溶液をアセトニトリルに沈殿させ、減圧乾燥すること

により無水マレイン酸が導入された各変性ジエン系ゴムを得た。¹H-NMRおよびIR分析により、酸無水物構造が導入されていることを確認した。